

<天井の耐震化における設計者の判断の重要性>講演会

【建通新聞】

<2015年12月17日(木)掲載>

天井耐震化で講演会 今後の対策を講義

構造調査コンサル協会

構造調査コンサルティ
ング協会(秋山友昭会長)
は11日、都内で「天井耐
震化における設計者の判
断の重要性」をテーマと
する講演会を開いた。東
京工業大学の元結正次郎
教授と写真が講師を担



当し、調査・設計の実務
担当者を対象に施工手順
のほか実験結果を踏まえ
た今後の対策などを講義
した。

講義では、東日本大震
災発生時の天井損傷事例
や震動台を使用した実験
結果などを紹介し、設計
者の判断の重要性を説明
した。元結教授は講義の
中で「天井落下のメカニ

ック・クリアランスの有
無、天井面の剛性など総
合的に知識を獲得した上
で、構造設計者の客観的
な判断が要求される」と
訴えた。

講義ではこのほか、軽
量天井材「かるてん」や
3Dスキャナーを活用し
た天井調査、全方位パノ
ラマ写真の調査活用など
を紹介。秋山会長は
「天井耐震化に関する法
令が公布されてから約2
年。告示や解説書に記載
された文言に形式的に対
応するのではなく、本意
を理解して構造設計に当
たることが重要」と話し
た。